

薬物療法学

《担当者名》教授 / 柳川 芳毅

【概要】

薬物療法学 では、感染症および悪性腫瘍の病態生理と薬理学的背景に基く薬物療法を学習する。

【学修目標】

- 感染症の発症機構と病態を説明できる。
- 感染症治療薬を列挙し、作用機序および臨床適用を説明できる。
- 悪性腫瘍の発症機構と病態を説明できる。
- 悪性腫瘍治療薬を列挙し、作用機序および臨床適用を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	感染症治療薬 教科書1:p459～483 資料配布	抗菌薬の作用機序を説明できる。 抗菌薬の抗菌スペクトルを説明できる。 抗菌薬の主な副作用を説明できる。 代表的な抗菌薬の基本構造と薬効の関連を概説できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-15-1)～4)	柳川 芳毅
2	感染症治療薬 教科書1:p483～493 資料配布	抗ウイルス薬の作用機序を説明できる。 抗ウイルス薬の主な副作用を説明できる。 抗真菌薬の作用機序と主な副作用を説明できる。 抗原虫・寄生虫薬の作用機序と主な副作用を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-15-2)～4)	柳川 芳毅
3	感染症の病態生理と薬物療法 教科書2:p463～480 資料配布	細菌感染症の発症機構を説明できる。 細菌感染症の薬物療法と予防法を説明できる。 抗菌薬に対する耐性獲得機構と耐性菌出現への対応を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-15-1), 5)	柳川 芳毅
4	感染症の病態生理と薬物療法 教科書2:p481～492 資料配布	ウイルス感染症の発症機構を説明できる。 ウイルス感染症の薬物療法と予防法を説明できる。 真菌感染症の発症機構と薬物療法を説明できる。 原虫・寄生虫感染症の発症機構と薬物療法を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-15-1), 5)	柳川 芳毅
5	悪性腫瘍総論 抗悪性腫瘍薬 教科書1:p495～512 資料配布	悪性腫瘍の特徴について説明できる。 白金製剤、アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍性抗生物質、微小管形成阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、などの抗がん薬の作用機序と主な副作用を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-16-1)～4)	柳川 芳毅
6	抗悪性腫瘍薬 教科書1:p513～525 資料配布	ホルモン関連薬の作用機序と主な副作用を説明できる。 分子標的薬の作用機序と主な副作用を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-16-2)～4)	柳川 芳毅
7	悪性腫瘍各論 血液がん 教科書2:p225～243	白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など血液がんの病態と薬物療法について説明できる。 関連するモデル・コアカリキュラム	柳川 芳毅

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	資料配布	D-2-16-1), 5)	
8	悪性腫瘍各論 固形がん 教科書2:p295～549 資料配布	消化器がん、肺がん、乳がん、前立腺がんなど固形がんの病態と薬物療法について説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-16-1), 5)	柳川 芳毅

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（筆記試験）の成績により評価する（100％）。試験終了後、正答を公開し問題の解説を行う。

【教科書】

1. 「パートナー薬理学 改定第4版」石井邦雄、栗原順一、田中芳夫編（南江堂）
2. 「コンパス薬物治療学 改訂第2版」原明義、小山進編（南江堂）

【参考書】

薬がみえる vol.3（感染症と薬・悪性腫瘍と薬）メディックメディア
病気がみえる vol.5（血液）メディックメディア

【備考】

必要に応じて講義プリントを配布する。

定期試験対策として定期試験対策テスト等を行う予定である（成績評価対象外）。

【学修の準備】

予習としては、次回の授業範囲に相当する教科書を読んで疑問点を明確にしておくこと（80分）。

復習としては、配布プリントなどを活用し、講義内容を再度理解し、次回の講義に備えること（80分）。

【関連するモデル・コア・カリキュラム】

D-2-15 感染症と治療薬

- 1) 感染症の原因となる病原体、感染経路や発症メカニズムを生体の恒常性と関連付けた上で、異常反応としての病態を説明する。
- 2) 治療薬の作用メカニズムと病態を関連付けて説明する。
- 3) 治療薬の作用メカニズムと耐性獲得メカニズム及び耐性菌の抑制を関連付けて説明する。
- 4) 治療薬の作用メカニズムと有害反応(副作用)を関連付けて説明する。
- 5) 疾患治療における薬物治療の一般的な位置づけ及び同種・同効薬の類似点と相違点を把握し、疾患へ適用する根拠を説明する。

D-2-16 悪性腫瘍(がん)と治療薬

- 1) 悪性腫瘍(がん)の発症メカニズムを生体の恒常性と関連付けた上で、異常反応としての病態を説明する。
- 2) 治療薬の作用メカニズムと病態を関連付けて説明する。
- 3) 治療薬の作用メカニズムと耐性獲得メカニズム及び耐性出現への対応を関連付けて説明する。
- 4) 治療薬の作用メカニズムと有害反応(副作用)を関連付けて説明する。
- 5) 疾患治療における薬物治療の一般的な位置づけ及び同種・同効薬の類似点と相違点を把握し、疾患へ適用する根拠を説明する。

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。

【実務経験】

柳川 芳毅（製薬企業において創薬研究に従事）

【実務経験を活かした教育内容】

創薬に携わった実務経験を活かし、実践的な教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している